

(報道資料)

## メタバースを活用した新たなビジネスモデルの検討に着手 - 3次元データのさらなる活用で地方創生を目指す -

株式会社パスコ（本社：東京都目黒区、以下：パスコ）は、空間情報事業を通じて、安心して豊かな社会システムの構築に貢献するという経営理念のもと、行政業務や物流・不動産など、さまざまな分野において3次元計測技術を活用したデジタル・トランスフォーメーション（DX）を支援しています。

このたび、パスコの3次元計測技術とメタバースの親和性を活かし、第1弾として地方創生に着目した新たなビジネスモデルの検討に着手します。

### ■背景

メタバースとは、インターネット上に存在する仮想空間です。仮想の街やイベント空間の中で、訪問者がアバターと呼ばれる分身（キャラクター）を操作して自由に動き回り、仮想空間内に設けられたイベントやコミュニケーションなどを疑似体験することができます。これまでゲームを中心に発展してきましたが、近年の社会様式の変化に伴い、オンラインの展示会・セミナー・会議などのビジネス分野での活用が増えています。総務省が公表した資料<sup>(※)</sup>では、メタバースの市場規模は2030年には約6,788億ドルまで拡大すると予想されています。

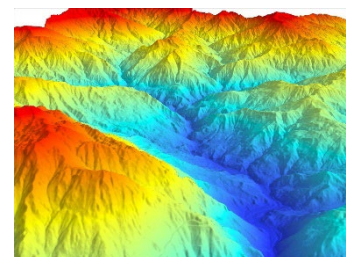
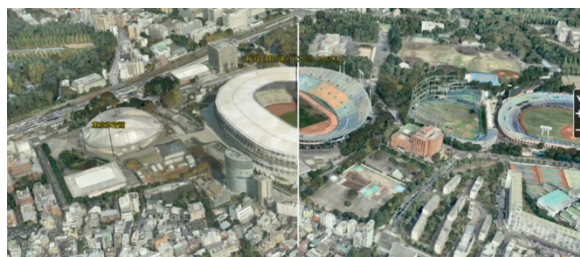
※総務省：「Web3時代に向けたメタバース等の利活用に関する研究会」資料より



### ■パスコの3次元計測技術とメタバースとの親和性

パスコは、人工衛星・航空機・専用車両・船舶などから、地上や水域における精密な3次元データを取得し、コンピューター上にリアルな3次元空間を再現する技術を有しています。そして、これらの技術を用いて、都市やインフラ管理に活用可能なデジタルツインの構築を支援しています。一方、メタバースは、3次元の仮想空間内においてイベントの疑似体験やコミュニケーションの場（空間）として活用されています。

両者とも、コンピューター上に構築された3次元空間という共通点があります。メタバースの仮想空間をパスコが取得するリアルな3次元空間に置き換えることで、現実空間での活動として疑似体験できるようになります。このような親和性を生かして、今後、地方創生につながるビジネスモデルを検討していきます。



パスコの3次元計測技術は、街や山間部などをリアルに再現します ©パスコ

■ 検討するビジネスモデルの例

- 地域遺産や街並みなど、地形・地物データをメタバース上にリアルに3次元再現したバーチャルツアー
- 地域の名山をリアルに3次元再現したバーチャル登山
- 地域の史跡・公園・観光地などをリアルに3次元再現したご当地ゲーム



■ 本件に関するお問い合わせ先

株式会社パスコ  
(報道機関) 広報部

<https://www.pasco.co.jp/>  
[press@pasco.co.jp](mailto:press@pasco.co.jp)

プレスリリースの内容は発表時のものです